

第3期川西市参画と協働のまちづくり推進計画(案)に係る

意見提出手続結果

- 1 意見募集期間 : 令和5年12月4日(月)~令和6年1月4日(木)
- 2 意見提出人数 : 8人
- 3 意見提出件数 : 10件
- 4 提出意見については別紙のとおりです。
お寄せいただいた意見は、それぞれの項目に分類し記載しています。
ただし、個人等が特定される箇所や内容が募集対象に合致しない意見については、記載していない場合があります。
- 5 意見提出者の氏名については、個人が特定されないことがないよう、
A~Qのアルファベット表記に変えて「提出者」欄に記載しています。

意見番号	意見の分類 (該当のページ、項目など)	意見の内容	市の検討結果	提出者
1	「第3章 現状について-2. 自治会加入率」	<p>自治会加入・存続は全国のかつ喫緊の課題であり、自身が所属している自治会においても、加入率の減少（加入率37%令和4年度現在）や活動の担い手不足、役員のみならず手不足による役職の長期化など、活動の運営が懸念される。また本自治会では、自治会休会・廃止の危機的状況を迎え、本計画案の掲げるような「自治を育てる、ジブンゴトにする」に逆行する状況が生じている。そのような中で、本市ではHP等で自治会活動の推進が主張される一方で、上記のような課題に対する具体的な対策や助言、サポートなどは全くと言っていいほど見受けられない。更に、今年度より自治会報奨金制度の内容が厳格化されてしまうなど、本市の財政状況等を理由とした自治会（主に役員）への負担の押し付け、自治会活動の負の側面に拍車をかけるものであり、市側の自治に対するスタンスが不明瞭なものと言わざるを得ない。自治会活動が持続可能な活動となるためには、その辺りの市側の努力（自助・共助の為に公助や支援体制等）が一層求められるが、市としてどのような受け止めをしているのか。本来、自治会は任意であるが、自治を推進するのであれば、十分なサポートが求められるし、一方で、自治に対する厳格的なスタンスを取るなら、市側から自治会側に業務を求めるべきでないと思う。</p> <p>また、活動を継続していくためには、自治会の地縁法人化（清和台など）、NPOや協同組合化させるなど、従来の自治会・コミュニティ単位の枠組みを超えた活動の展開が求められ、商工会や青年会議所、市内事業者等の団体との連携・支援も視野に入れた活動も積極的に展開されていくべきだと考える。市の取り組みや今後の具体的な方向性について伺いたい。</p> <p>追記：自治会の有用性をアピールする必要がある。防災機能、孤独・孤立の早期発見・対策 住民同士（自治会の枠組みを超えた）での情報共有・つながり、自治会同士での連携、地域の困りごとの相談支援機能の強化</p>	<p>自分たちの住む地域をより良いものにしようと、地域での話し合いのほか、見守りやつながりづくり、環境、美化など身近な課題に自分たちで取り組むための集まりが自治会であり、その活動は非常に重要です。そのため、自治会の取組みや自治会館の修繕等に対する補助や自治会勉強会の開催、自治会活動運営マニュアルの作成、市民活動センターと連携した相談対応、転入者へのリーフレット配布やホームページ等の情報発信などの取組みを行っています。自治会の課題解決については、自治会自身での活動内容や運営方法の見直し、またそれらに対する市の支援のほか、自治会に加入していない人が加入する、参加するといったことが重要であると考えており、「みんな、気がついたらまちづくりに参加している」ということをめざす姿として様々な取組みを進めていくこととしています。</p> <p>自治会報償金の見直しについては、単に歳出削減を目的にしたものではなく、より効果の高い制度への変更を目的にしたところです。そのため、令和6年度からは、まずは自治会においての用途を明確にして頂くことで透明化を図ったところです。交付額については従来通りの基準を採用しており会員世帯数に変更がなければ従前の交付額と同額を交付しています。</p> <p>また、自治会には民生委員の推薦や安全灯などの交通安全施設の設置調整などにご協力を頂いておりますが、それらの役割が役員の方のご負担になっていることは理解しています。一方で、これらは財政上の問題で自治会に依頼をしているのではなく、自治会を通じて取り組むことが、より地域の実情にあった取り組みになることを期待しています。</p> <p>自治会の法人化については、組織や活動の継続性や役員の方の責任の明確化など組織強化の1つの方策であり、参画協働課や市民活動センターで相談対応を行っております。他団体の連携につきましてもコミュニティ組織での連携や自治会同士の連携、自治会とNPOとの連携、また、何かやってみたい市民との連携などの取組みを進めていきたいと考えています。</p>	A-1
2	「第6章 推進方策について-1.めざす姿を実現するために」	<p>指標の目標設定の根拠を伺いたい。</p> <p>「参加する」の「自治会やコミュニティ、地域でのボランティアの活動に参加している市民の割合」「NPOなどの非営利活動やボランティアグループでの活動に参加している市民の割合」「参画の取組みを行ったことがある市民の割合」の何れも目標設定が低いのではと感じるが、どのような理由から選ばれているのか？</p>	<p>「自治会やコミュニティ、地域でのボランティアの活動に参加している市民の割合」の目標値50.0%は、現在の施策評価指標の目標値50.0%に合わせたもので、市民の半数は地域活動等に参加してほしいと考え設定しています。過去5年間で最も高い数値は、35.7%になっています。</p> <p>「NPOなどの非営利活動やボランティアグループでの活動に参加している市民の割合」の目標値30.0%は、現在の施策評価指標の目標値30.0%に合わせたもので、令和4年度市民実感調査により「参加したことがないがきっかけがあれば参加したい」と回答した人35.4%を考慮し設定しています。過去5年間で最も高い数値は、17.8%になっています。</p> <p>「参画の取組みを行ったことがある市民の割合」の基準値21.4%は、令和5年10月の市民実感調査の結果から設定していますが、第2期計画期間での同様の設問に対する過去5年間で最も高い数値は11%であり、約10ポイント上昇しています。今回、設問を具体的にしたことや、様々な計画策定にあたってワークショップやアンケートなどを多く実施していることから、大幅に数値が上昇しているものと考えています。目標値の設定は、この21.4%から第2期期間中の最大の上昇幅である3.4ポイントを参考に3.6ポイント上昇の25.0%に設定しています。</p>	A-2
3	「第6章 推進方策について-2.必要な取組み」	<p>まちづくり出前講座のメニューが充実していて、自身でも開催・企画をしてみたいと考えているが、利用には、概ね10人以上の団体・グループと書いており、人数を集められず、ハードルが高く、参加しづらい。何とかならないのか？地域人材マッチング等とも運動できるような仕組みづくりをして欲しい。</p>	<p>まちづくり出前講座については、ご意見のとおり一定人数のグループで申込みをお願いしています。出前講座の形態でなくとも、例えば3人であるテーマについて話を聞きたいということであれば対応できる場合もありますので一度ご相談いただければと思います。</p> <p>また、地域人材マッチングで登録いただいた方を講師に講座を開くなど、市民の力を活かせる取組みを進められるよう検討してまいります。</p>	A-3

意見 番号	意見の分類 (該当のページ、項目など)	意見の内容	市の検討結果	提出者
4	「第3章 現状について-2.自治会加入率」	<p>本調査の結果どおり、自治会の加入率は、年々減少しています。これは自治会を必要としない市民が多数であり、なくても困らないことを意味します。</p> <p>私が所属し役員をしている自治会は、加入率35%で、本年11月に行った自治会存続についてのアンケートでは自治会員の47%程度が存続を希望する結果となりました。存続希望の多くは高齢者で、若い方ほど自治会の必要性を感じていないようです。現在自治会運営をして感じることは、自治会の退会理由として班長・組長や役員といった役を引き受けることが負担でやりたくないというシンプルな要因です。役を引き受けるなら辞める、役をした後に辞める方が大半だからです。(特に役員の引き受け手はなく、存続維持することは不可能に近い状況です。多くの自治会も同じ状況ではないでしょうか。)つまり、役の負担を解消すれば加入率の維持、もしくは向上につなげることができるといえます。</p> <p>そこで提案として、自治会役員に選出する場合、市職員を派遣する、もしくは自治会員等を有償で雇用することです。中軸となる役員を派遣・雇用で自治会館に常駐することにすれば、サポートする自治会員(班長や組長)の負担は軽減し、維持向上が図られるとともに、高齢者の要望である居場所・コミュニティスペースとしての機能に転換すれば自治会の必要性が格段にあがると思われます。近所の会館に行けば誰かに会えとなれば独居や子育て世帯にも大きなメリットになり、地域の連携にも役立ちます。</p> <p>このままでは自治会の存在意義はなくなります。「ジブンゴト」となる自発的な市民を育てるには、大胆な施策が必要です。役員の経験上からも今後の自治会は、コミュニティスペースに転換することだと考えます。</p>	<p>ご意見のとおり、自治会の加入率の維持・向上には、役員の負担軽減は重要な取組みであり、会館に常駐スタッフを置くことなどは、負担軽減や地域住民の居場所づくりにつながるものだと考えます。</p> <p>一方、自分たちの住む地域をより良いものにして、身近な課題に自分たちで取り組むための集まりが自治会であり、市の職員が自治会業務を行うことや自治会員を有償で市が雇用することはございません。</p> <p>会館の活用方法など他の自治会での取組み事例等について共有できるよう努めてまいります。</p>	B-1
5	「第3章 現状について-2.自治会加入率」	<p>当自治会の区域は、AED設置の施設がありません。 (駅には設置あり)自治会館に、AED付帯自動販売機設置を試みましたが、一般企業からは利益が上がらないと断られました。自治会館は、川西市からお借りして、地域住民の力で、管理している施設ではありますが、公共性の高い施設ではないかと考えます。自治会の議論として挙がっていることを報告しておきます。</p> <p>自治会加入者が減少していき、加入者の高齢化により、役員を担える人員が限られています。川西市の自治会加入に対する働きかけが少ないように感じております。</p> <p>自治会加入者の役割負担が増えていけば、自治会の解散となる日も近いと危惧します。地域住民が地域をより良くする取り組みを自発的に行っていることを念頭に置いて、川西市としても、自治会加入を呼びかける働きかけを行って欲しいと思います</p>	<p>自治会館は地域の活動場所であり、幅広い世代の方々がつどい、交流されています。また選挙の投票所や避難所になることもあり、ご意見のとおり一定の公共性があると考えています。市では、地域活動団体が自動体外式除細動器(AED)を設置しようとする際には、費用の一部を助成していますので、その活用についてもご検討ください。</p> <p>現在、市では、自治会活動や自治会館の修繕等に対する補助、自治会勉強会の開催、自治会活動運営マニュアルの作成、市民活動センターと連携した相談対応、転入者へのリーフレット配布やホームページ等での情報発信などの取組みを行っておりますが、ご意見のとおり、自治会の加入率は減少傾向にあります。令和6年度より、新たな参画と協働のまちづくり推進計画がスタートすることとなりますが、「みんな、気がついたらまちづくりに参加している」という同計画のめざす姿の実現に向け、従来の取組みを見直しながら、多くの住民が地域活動に関わっていただけるよう取り組んでまいります。</p>	C-1
6	「第6章 推進方策について-2.必要な取組み」	<p>チャレンジ事業交付金制度の復活 一括交付金を一律減額して、やる気のあるコミュニティに加算することで、新規事業や人材の発掘を促進する。</p>	<p>一括交付金については、現在、均等割と人口割で各コミュニティ組織に配分しており、ご意見にあるチャレンジ事業交付金制度は実施していません。本計画においても一括交付金の運用の見直しを検討することとしており、各コミュニティ組織と意見交換を行いながらより良い仕組みとなるよう検討してまいります。</p>	D-1

意見 番号	意見の分類 (該当のページ、項目など)	意見の内容	市の検討結果	提出者
7	「第6章 推進方策について- 2.必要な取組み」	<p>「市民のさまざまな主体の力が発揮できる仕組みを増やす」という考え方で取り組んでいただけるなら「市民の畑サイエンス」とおして市民全員が参加しやすい身近な取り組みを望みます。</p> <p>自然豊かな川西だからこそ、市内に何点か大規模でなくても空き地を利用した菜園をつくる。 菜園ができるような土壌づくりから市民に協力を得て行う。 空いた時間に行きやすい菜園。野菜作りに気軽に参加できる菜園。 お年寄りから子供まで、自身の手でプチ自給自足の実体験をする。 農業のプロの方の指導をもとに市民が集い、作り耕し、自然の恵みをいただく。 参加しやすい市民活動の一つの取り組みとなるならば、これらの各地に設けた菜園をネットワークで結び、常にそこに行けば、市の活動や情報が自然と入ってくる。 菜園を運営する人から菜園を行う人に分けるのではなく、常に情報を共有して今日自分にできることをネットであがっている予定表に登録して参加する。 定年後の第二の人生を迎える人、子育てから少し手がはなれて時間がとれるようになった人、もちろん現役世代や学生の立場の人、あらゆる人が「菜園」を通じて一つなる。</p> <p>さまざまな人の主体力が発揮できる仕組みをつくることによって、そこから今まであまり認知されてこなかった、自治体の活動をも発信しできる場所にもしていく。人とのつながりをも感じられる場所を提案します。</p>	<p>本計画では、「みんな、気がついたらまちづくりに参加している」ということをめざす姿として、自分たちがまちづくりの主体であるという意識を持ち、自分たちの住んでいるまちをより良くしていくために気軽に自分ができることをやってみる。そのためのきっかけや取組みが重要であり、「さまざまな主体の力が発揮できる仕組みを増やすこと」を考えています。参画と協働のまちづくりを実現していくため、ご意見の案を含め、市民や様々な主体が参加しやすい身近な取り組みを検討してまいります。</p>	E-1
8	【全体】	<p>第3期推進計画を拝見し、私たち一人一人がまちづくりの主体であることを認識し「ジブンゴト」として捉える重要性を再確認いたしました。市民アンケートではコミュニティや自治会に参加しにくい理由として「時間がない」という回答が一番多いようですが、今後共働き世帯の増加や定年年齢引き上げなどにより益々時間的な理由で参加が難しい市民が増えると思います。そのような場合でも、出会った人に挨拶をする、広報誌や回覧板、掲示板を見る、市の取組みに目を向けるなど意識をすればすぐに出来ることを続けるうちに、市が目指す「みんな、気がついたらまちづくりに参加している」姿に繋がれば理想的だと感じました。4つの基本姿勢にもあります「子どもの幸せ」を実現するためには、子育て世代だけではなく、様々な年代層の方々がお互いを尊重し、多様な個性を認め合いながら自由な雰囲気意見交換が行える場が必要だと思いますが、現状は川西市内のあらゆるところで戦々恐々としたコミュニティや自治会の会議が行われている実態です。また、ある一定年齢層以上の役員さん方が口々に「市は普段何もしてくれないのに、都合の良い時だけ色々依頼してくる」「こんな行事をしても市からの評価がもらえないから、もっと助成金がもらえそうな行事内容に変えよう」等と発言し、どうしても市vs地域のような雰囲気を醸し出しているの、残念ながら今のままでは子どもが地域との関わりを避けるようになってしまいます。</p> <p>また、つながり・きっかけづくりにあります「知り合い等をイベントに誘う」という表現を「しつこく声かけをして無理矢理イベントを手伝わせる。参加に積極的でない人に対してはどんな手段を使っても強制参加させ、とにかく人を集めることが素敵な町づくりだ」と間違った捉え方をしている人もいるので、なかなか難しいとは思いますが、例えば自治会活動への相談対応、地域の会議や集まりの実情を知っていただく等、今より行政と地域との連携が取れると地域自体も変わっていくのではないかと感じております。</p> <p>川西市で生まれ、一人暮らしの経験もなく今までずっと同じ地域に住み続けてきた私としましては、参画協働課さんが様々な取り組みや改革をしてくださっているおかげで3世代にわたり川西市に在住できていると感謝しておりますので、是非今後も川西市民みんなが、特に未来を担う若い人たちや子どもたちが住み良いと思える町づくりへのお力添えをどうかよろしく願いたします。</p>	<p>本計画では自分たちがまちづくりの主体であるという意識を持ち、市や地域の取組みに自分のやりたいことやできることで少しずつでもできる仕組みがあることが大切だと考えて、めざす姿を「みんな、気がついたらまちづくりに参加している」とし、市民や地域団体、市などの様々な主体の取組みを掲げています。この、めざす姿の実現のために、ご意見にありますように、多様な個性を認め合いながら自由な雰囲気意見交換が行えることは重要であり、地域団体をはじめ様々な団体の実情を把握しながら必要な取組みを進めてまいります。</p>	F-1

意見番号	意見の分類 (該当のページ、項目など)	意見の内容	市の検討結果	提出者
9	【その他】	<p>1.街路樹について 市の街路樹はいたるところ短い電柱のように剪定されています。何のために街路樹はあるのでしょうか。街路樹の恩恵に預かれるのは、東京の表参道のような広い歩道が不可欠です。狭い歩道では弊害の方がおおい。街路樹はいいものだ、歩道には街路樹を植えるという概念を捨てるべきです。</p> <p>害の例 狭い歩道が街路樹でさらに狭くなり、通りにくいです。まして車いすでは通行困難です。さらに歩道が盛り上がり、歩行とかランニングでつまづきます。元来木々は枝を貼る範囲の領域が必要です。狭いとこでは無理なのです。植木の常識です。</p> <p>また、掃除困難な高齢者の苦情があり剪定すると考えられますが、過剰な選定をするのであれば、本来街路樹は必要がないこととなります。植木業者の毎年の収入になるような施策は改め下さい。財政の厳しい中、税金の無駄遣いです。少しでも税を下げてください。</p> <p>川西には木を植える広い歩道はありません。植木は根元から切ってください。剪定費用をなくしてほしいです。また、歩道の脇（両側もあります）に木々の森があるのにわざわざ街路樹を植えています。無駄の限りを尽くしていると考えます。無駄をなくして、税をさげてください。お願いします。</p>	<p>本計画では自分たちがまちづくりの主体であるという意識を持つことが必要であると考えています。自分たちが住んでいるまちをより良くしていくためのきっかけや取組みが重要であり、「さまざまな主体の力が発揮できる仕組みを増やすこと」を基本的な考え方として取組みを進めてまいります。</p> <p>街路樹につきましては、関係所管において、安全性の確保を前提とし、これまでの本数(量)重視から街路樹の機能や役割を活かす適正な配置と量とすることで、管理コストの縮減をめざし、ご意見の案を含めた適正な維持管理を進めてまいります。</p>	G-1
10	【その他】	<p>パブリックコメントを初めて提出いたします。わたしは、川西市で住みだして3年経過します。子供の頃から住んでいる人とは異なる視点になるかと思いますが、よろしくお願致します。</p> <p>わたし自身が川西市に限らず、「こうなっていったら市民生活として快適だ」と感じることをベースに内容をまとめました。なるべく具体的に述べているつもりですが、読み手によって受け取り方は異なりかもしれません。</p> <p>わたしからは、「まちづくりに関すること」の意見を2点お伝えします。</p> <p>「まちづくりに関すること」の意見は以下のとおりです。</p> <p>1. 公園の荷物置き場の設置 2. 市民へのゴミ回収ポケット携帯の推奨</p> <p>1. 公園の荷物置き場の設置について 単刀直入に申し上げますと、わたしは、自分の住まいの近くの公園に子どもたちが外遊びをする遊具を格納できる置き場が欲しいです。</p> <p>毎日子どもたちと通う公園に、ボールや水鉄砲、シャボン玉などをいれることができると嬉しいですね。</p> <p>倉庫だと管理が大変です。また、子どもたちがかくれんぼをしてしまうなどの懸念があります。</p> <p>ゆえに、宅配ボックス程度のロッカーを設置できれば、公園の活用の幅が広がると、わたしは考えます。</p> <p>以下のURLは、「遊具を格納できる置き場」としてわたしが川西市に設置して欲しいもののイメージに近い商品です。 (この商品が適切かどうかはわかりませんが)</p> <p>https://www.lixil.co.jp/lineup/gate_fence/deliverybox_kt/ (商品は「リクシル製の宅配ボックス KT」というものです。サイズも強度もこの程度のもを想定しています)</p> <p>屋外に置いておける強度があり、設置と撤去が比較的簡易であれば、川西市の運営上も扱いやすいと思います。</p> <p>すでにこのようなアイデアは存在していると思いますが、ルールの規定や恒久的な管理が困難で実現は叶わないものではないでしょうか。</p> <p>その点を踏まえて、ルールのたたき台の提案とメリット・デメリットの洗い出しをいたしました。</p> <p>公園の遊具置き場については、以下のとおりです。(公園の遊具置き場は、ロッカーと称して説明いたします)</p> <p>1. 【市もしくは各自治体ごとの対応】 2. 【公園の遊具置き場のルール】</p>	<p>ご意見のとおり、本計画では自分たちがまちづくりの主体であるという意識を持つことが必要であると考えています。自分たちが住んでいるまちをより良くしていくためのきっかけや取組みが重要であり、「さまざまな主体の力が発揮できる仕組みを増やすこと」を基本的な考え方として取組みを進めてまいります。</p> <p>提案1につきましては、市民が公園のあり方を検討し、使いやすい公園をめざすことで市民の手により利用が展開されるよう、関係所管において、ご意見の案を含め公園利活用を検討してまいります。</p> <p>次に提案2につきましては、環境美化を推進するため、市民や地域団体、市など様々な主体が自発的に活動するとともに、互いに情報を共有し連携し合うことが重要であるとと考えています。より快適な環境で暮らせるまちづくりをめざし、関係所管において、ご意見の案を含め施策を検討してまいります。</p>	H-1

意見 番号	意見の分類 (該当のページ、項目など)	意見の内容	市の検討結果	提出者
		<p>3. 【市民へのメリット】</p> <p>4. 【市民へのデメリット】</p> <p>1. 【市もしくは各自治体ごとの対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> - 公園内に小型の屋外対応のロッカーのようなものを設置する。 - ロッカーには、4桁の暗証番号を設定しさえすれば、ドアを開けられるようにする。(既存の商品で良いと思います) - ロッカーのドアの内外に注書きを記載する。 - ロッカーの暗証番号は、各自治体の回覧板などで周知するものとする。 <p>2. 【公園の遊具置き場のルール】</p> <ul style="list-style-type: none"> - ロッカーは大型公園では複数個設置し、小型公園では一つ設置する。 - ロッカーの中には、子供は入らないこと。 - ロッカーは清掃日を設け、その日にロッカーに収納されている物品は廃棄すること。 - ロッカーの中には、各家庭ごとに透明のビニール袋などに遊具をしまい、氏名を明記すること。 - 氏名の明記のない遊具においては、各人利用可能とする。 - ロッカーに危険物や良識的にふさわしくないものを収納することは禁止する。 - (イラストで入れていいものとだめなものを明記する想定です) - ロッカーには油性ペンとビニール袋などの備品を設置するのは、各家庭ごとおよび各公園付近に住まう有志の方が行うものとする。 <p>3. 【市民へのメリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> - 手ぶらで公園にいける。 - 公園までの移動時の荷物を減らせる。 - 子どもたちの公園での楽しさが増す。 - おもちゃのおとしものなどもロッカーに入れておける。 <p>4. 【市民へのデメリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> - ロッカーの暗証番号は自治体ごとに共有するので、盗難のリスクが非常に高い。 - 子どもが取り間違えたり、他の家庭のおもちゃを使いたがるなどのトラブルが想定される。 - ロッカーの清掃日を把握して、収納した物品を事前に回収しないと、廃棄される懸念がある。 <p>以上が、1. 公園の荷物置き場の設置に関する提案です。</p> <p>2. 市民へのゴミ回収ポケット携帯の推奨について 2024年3月以降に、公園のゴミ箱が撤去されます。 公報で周知されており、その記事を読んで、撤去について、わたしは知りました。 公園のゴミ箱撤去の記事を読んだ際に、「各個人のゴミは(今までに比べてより一層)自己責任の範疇になる」と理解できました。 それと同時に、「ゴミを持ち帰る仕組み」を市民一人一人に取り組みやすい啓発が必要だと、わたしは思いました。 わたしの場合ですが、家族で出かけた際に、食べたお菓子やペットボトル、チリ紙などのゴミがかなり出てしまいます。 ゴミの持ち帰りは、各家庭、個々に託すべきだとわたしは考えますが、すべての人が久しく自分のゴミを回収できるとは限りません。 例えば、子どもはゴミを落としても気付かないかもしれません。 大人の方でもゴミをまとめたものを持ち帰るのを忘れてしまうかもしれません。 やはり、ゴミが川西市の至る所に点在する状況を少しでも良くするためには、市民自らがまちづくりの主体であることを認識することが必要不可欠です。 ゆえに、市民一人一人が取り組みやすいゴミ回収ポケットを携帯すべきだと、わたしは考えます。 わたしの提案するゴミ回収ポケットは、「自分の出したゴミ」ではなく、「外出した際に既に落ちていたゴミを含めて、各個人が回収できそうだと判断したゴミ」を回収するためのアイデアです。 似たような活動は既に存在し、啓蒙活動を行い工夫をこらせば、生活に組み込むことは可能ではないでしょうか？ 下記は、京都府の文化生活部安心・安全まちづくり推進課の取り組みです。壁面の落書きなどを市民自ら清掃し取り締まる活動のようです。 https://www.pref.kyoto.jp/anshin/warenado.html 市民自らが街の美化に務めることは、町を衛生的にし、良識的な町づくりの基礎になると、わたしは考えます。 既に落ちていたゴミを含めてゴミを個人が回収するという行動は、大人の方でも難しく、かなり高度な衛生意識と良識的ふるまいが必要です。 その点を踏まえて、川西市側の啓発活動の概要の提案及びメリット・デメリットの洗い出しをいたしました。 ゴミ回収ポケットについては、以下のとおりです。</p> <p>1. 【市もしくは各自治体ごとの対応】</p> <p>2. 【ゴミ回収ポケットの想定】</p> <p>3. 【市民へのメリット】</p> <p>4. 【市民へのデメリット】</p>		

意見 番号	意見の分類 (該当のページ、項目など)	意見の内容	市の検討結果	提出者
		<p>1. 【市もしくは各自治体ごとの対応】 市民へのゴミ回収ポケット携帯の推奨チラシを作成し配布する。 公式サイトに、市民へのゴミ回収ポケット携帯の推奨ページを作成する。 市長及び各政党および川西市にゆかりのある著名人が市民へのゴミ回収ポケット携帯の実施に関するSNS投稿を行う (SNS投稿は、1ヶ月に1回程度が望ましいかもしれませんが、それでも継続することは大変である想定です)</p> <p>2. 【ゴミ回収ポケットの想定】 - ゴミ回収ポケットは、各個人の能力や余力に期待した規模を想定しています。 - ビニール袋を数枚持ち歩いておいて、ゴミを見つけたらひろう程度のものでいいです。 - また、ゴミ回収ポケットとして内側が防水加工になったポーチャカバンなどを携帯し、ゴミを見つけたら持ち帰るなども想定しています。 - 危険物や不衛生すぎるものが投棄されている場合は、個人での回収は困難です。 - 各家庭で、「このゴミは拾おう」「このゴミは拾わない」などの子どもたちにルールを伝える努力が必要です。 - 自治体の清掃日に行う場合と違い、外出先で各々がゴミを拾って、拾ったゴミを適切に分別して自宅で廃棄します。</p> <p>3. 【市民へのメリット】 - 外出した場所で細々としたゴミを拾うことで、各個人の生活圏の衛生状態が良くなっていきます。 - 「割れ窓理論」ほどに大袈裟なものではありませんが、ごみ拾いを行う市民が点在することで、ポイ捨ての防止に繋がります。 - 外出先で持て余した時間にゴミ拾いを行うことで、体を動かし、身体の状態を維持させることに繋がります。(すでに足腰が辛い方には不向きな提案で申し訳ないです)</p> <p>4. 【市民へのデメリット】 - 市民へのゴミ回収ポケット携帯が普及した場合、携帯していないことがよろしくない印象に成りかねない。 - 拾うゴミを持ち帰る不快感やゴミに付着した菌などに感染するリスクがある。 - 大きなゴミを見つけた際の対処に困る - ゴミ捨てに対して過剰な規律意識が芽生え、対人関係トラブルに成る可能性がある。</p> <p>上記が、2. 市民へのゴミ回収ポケット携帯の推奨についてに関する提案です。</p> <p>2つとも実現性は低い案かもしれませんが、 実現不可能な点を挙げ連ねて、廃案にすることは簡単です。 しかし実現は難しいながらも採用してもらえたら、この町の市民の方々の良識的なふるまいから察するに、建設的なまちづくりに貢献できる案だと、わたしは思います。 100年続く川西市のためにどうか、一度、「公園の荷物置き場の設置」と「市民へのゴミ回収ポケット携帯の推奨」の提案をご検討ください。</p> <p>よろしく願い致します。</p>		